

社会とカシオ

Responsibilities to the Society

カシオ独自のノウハウや経営資源などを活かし、良き企業市民として、広く社会に対する責任を果たしていきます。

社会貢献活動の考え方

カシオは、「次世代教育」「学術・研究」「環境保全」「地域社会活動」「文化・芸術」の5分野への活動を通じて、健全で心豊かな社会づくりを目指しています。

活動を通じて、社会とのコミュニケーションを図り、良き企業市民としてカシオに何ができるかを見極めながら、積極的に社会貢献活動を行っています。カシオ独自のノウハウや経営資源、並びに従業員個人が保有するさまざまな知識や経験を有効に活かして、カシオらしい活動を展開していきます。

今後は、東日本大震災被災者への支援を継続して行っていくとともに、国際的課題の解決に向けた取り組みについても計画・推進していきます。



次世代教育

出前授業、受け入れ授業の実施

カシオは、本業での活動として、教育活動でご活用いただく電卓、電子辞書等の商品を広く社会に提供してきました。2007年からは、「より広く、より深く、教育活動への貢献」という思いで、2007年より、主に小学生を対象としたオリジナルの教育プログラムを開発し、出前授業および八王子技術センターでの受け入れ授業を実施しています。

出前授業のプログラムは大きく分けて、「三つの学び（絆・創造・心の成長）」、「命との触れ合い」、そして、「今、世界で起きていること」の3部構成となっています。まずは「絆・創造・心の成長」。子供たちとの対話を通じて、命の大切さに気付いてもらうプログラムです。次に行うのが命のふれあい。器材を用いて心音を聞いたりすることで命と触れ合い、命を感性で感じてもらいます。最後が「今、世界で起きていること」。これは、私たちの命を育んでいる地球環境について、世界の子供たちの間で起きている、さまざまな問題について思いを共有し、対話をする場を設定し、「命とは、平和とは、あるいは貧困とは、環境とは」などについて、気づきと行動を醸成する場としています。



出前授業の実施

また、カシオグループの中でも最先端の環境配慮型事業所である八王子技術センターでの受け入れ授業は、より環境面に配慮した形で展開しています。八王子技術センターの施設見学を通じて、企業における省エネ活動や、ゴミの分別などの身近な環境活動に触れたり、環境に配慮した商品技術として電卓の分解、組み立てを体験することにより、地球環境保護への意識と気づきを持っていただくことを目的としています。

※出前授業の詳細については、[特集「命の授業」](#)をご参照下さい。



蓄熱槽
タンクの水を安価な夜間電力で冷却しておき、昼間のオフィスの冷房に使用します。



屋上緑地

科学イベントに参加

カシオは、2012年8月11日に「世界一行きたい科学広場in宗像 2012」、11月23日に千葉県浦安市の東海大学付属浦安高校で開催された「世界一行きたい科学広場 in 浦安 2012」、12月1日には静岡県静岡市の東海大付属翔洋高校で開催された「みんなでつなぐ元気が出るドリームサイエンス 2012 in Shimizu」と、子供たちがものづくりの楽しさや、科学や自然現象の不思議を発見・体験できるイベントにブース出展し、デジタルカメラのハイスピードムービーで「水風船が割れる瞬間を撮る」体験コーナーを設置しました。水風船が割れた瞬間にゴム皮膜が収縮、風船の形状を空中で維持しようとする水の映像に、子どもたちは目を輝かせていました。



水風船が割れる瞬間をZR1000のハイスピードムービーで撮影

カシオ上海の教育活動

中国教育省の教材研究所と教育実験プログラムについて提携

カシオ上海は、中国教育省の教材研究所と教育実験プログラムについて、3年間の提携を結びました。今後、中国の有名外国語学校21校に電子辞書、グラフ関数電卓、デジタルピアノ、プロジェクターを提供し、教育実験プログラムを実施します。これにより、各学校の教育効果が上がることを期待しています。



北京で行われた調印式

カシオ教育奨励基金

カシオ上海は、北京大学、上海外国語大学、復旦大学、華東政法大學、北京外国語大学、天津外国語大学、華東師範大学に「カシオ教育奨励基金」を設立し、優秀な学生および優れた研究成果を上げた教員などに、奨励金を授与しています。

同奨励基金設立は、人材育成の場として重要な役割をもつこれら大学の発展を、長期的視野で支援することを目的としています。

今後も、語学、国際金融貿易、国際工商管理、マスコミ、法学、国際教育など多岐に渡る学問を支援し、学術研究の発展と振興に寄与していきます。



中国で日本学研究修士論文コンテストに協賛

カシオ上海は、2008年度より、中国教育部大学外国語専門教学指導委員会日本語分会、中国日本語教学研究会、および北京日本学研究中心が共同主催する、中国で唯一の日本学研究修士論文コンテストに協賛しています。

同コンテストは、中国の各大学間の交流を促進し、中国における日本学研究を深め、さらなる優秀な日本学研究の人材を育成することを目的としています。電子辞書メーカーであるカシオグループは、これを積極的に支援すべく、同コンテストの名称を「カシオ杯」として開催しています。



学術研究

「カシオ科学振興財団」への支援

カシオは「カシオ科学振興財団」への支援活動を通じて、科学技術の発展に貢献しています。

財団について

カシオ科学振興財団は1982年に、故・榎尾茂前会長と榎尾4兄弟によって設立されました。

我が国が技術先進国として世界に貢献するという使命を果たすには、高度な研究開発がさまざまな分野で進められるべきであるとの理念のもと、特に限られた研究費で困難な研究を続けている若手研究者による萌芽的な段階にある、先駆的かつ独創的研究の助成を主眼として、研究助成活動を展開しています。助成対象分野も電子工学・機械工学から健康関連・省エネ関連の自然科学、また人材育成・人間行動の人文科学まで幅広い分野に対応しています。

30年間の研究助成の累計は14億3,114万円（1,129件）に達しました。



第30回（2012年度）贈呈式

2012年度の助成内容

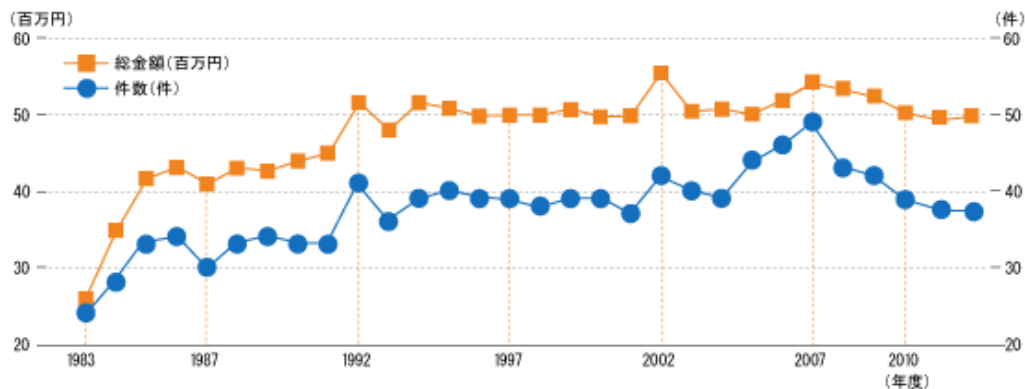
2012年度は、5分野21分類の基本テーマに加え、近年の社会情勢から見て重要と思われる特別テーマ（「次なる産業革命の中核をなす新技術研究」）を設定しました。

178大学に研究テーマの推薦を依頼した結果、97大学から248件という応募が寄せられ、厳正な選考審査の結果、合計38件 5,000万円の助成を実施しました。

助成研究者は30～40代が大半であり、12月7日に行われた贈呈式には次世代を担う若き研究者が多数参列しました。

特別テーマ	3件 1,500万円
A系（電子工学・機械工学）	21件 2,100万円
B系（医学・生理学）	8件 800万円
C系（人文科学）	6件 600万円

カシオ科学振興財団 研究助成金の推移



助成研究者の声

カシオ科学振興財団の研究助成をいただき誠にありがとうございます。「イカに学ぶ次世代型透明ディスプレイ」という非常にチャレンジングで萌芽的なテーマにも関わらず、ご理解いただきありがとうございました。現在、世界最小のイカ“ヒメイカ”と格闘する毎日です。バイオミメティクス研究から次世代を担う技術の創出、日本初のオリジナルな技術の創出を目指しています。今後も皆様のご指導御鞭撻の程を何卒よろしくお願い致します。

京都大学大学院 情報学研究科 知能情報学専攻 生体情報処理分野 助教 前川 真吾様



環境保全

「イルカ・クジラ・エコリサーチ・ネットワーク」支援

カシオは、1994年に日本で開催された「第4回国際イルカ・クジラ会議」より、"G-SHOCK"と"Baby-G"の協賛モデルを販売し、売上金の一部を「アイサーチ・ジャパン（国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター※1）」に寄付することで、世界各地のイルカ・クジラの生態研究や自然保護教育活動を支援してきました。

今回で18回目となる2012年度は、2つのNewモデルをリリースし、その売上の一部を同団体に寄付しました。

※1アイサーチ・ジャパン（国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター）

1991年に設立され、イルカ・クジラと地域の自然を大切にするため、「知る」「会いに行く」「大切にする」という3つのステップでイルカ・クジラと自然の素晴らしさを伝える活動に取り組んでいる非営利団体です。



「国際イルカ・クジラ・エコリサーチネットワーク」モデル

植樹活動の実施

カシオ電子シンセンでは、地球環境や地域社会との共存共栄を目指し、9年前から植樹活動に参加しています。

2013年3月には、従業員40名が、シンセン市城市管理局およびシンセン市緑色基金会共同主催する2012年度植樹活動に参加し、植樹を実施。地域の方々とさらに良い関係を築くとともに、従業員同士の団結力を高めることができました。

また、当日は、地域住民の方々にエコバッグを配布して環境保全への意識向上を呼びかけました。今後もこのような活動に積極的に参加していきます。



植樹風景



エコバッグ配布

地域社会活動

「カシオ技術クラス」設置と実習生の受け入れ

カシオの電子辞書・電子楽器・時計の製造を行うカシオ中山では、中国内陸部の発展途上地域で技術・技能者を育成すること、並びに、希望者には当社に入社して活躍してもらうことを目的として、2009年より湖南省の工業系専門学校と、2011年には広西省の市立専門学校と提携し、同学校内に「カシオ技術クラス」を設置しています。

希望者に対して3カ月の工場実習を行っており、2012年は3月まで湖南省の工業系専門学校より490人、9月まで広西省の市立専門学校より280人の実習生を受け入れています。毎年実習生の技術レベルは上達してきており、特に優秀な実習生に対しては、表彰も行っています。今後も、「カシオ技術クラス」を活用した人材育成をさらに発展させていきたいと考えています。



表彰式後の記念写真



実習生

果樹王国ひがしね さくらんぼマラソンに協賛

山形カシオは、「企業活動だけでなく、地元・東根市への地域貢献を通じて地域により愛される企業になろう!」と考え、「果樹王国ひがしね さくらんぼマラソン大会」に、2004年より協賛しています。

11回目となる2012年の大会では、協賛企業として賞品提供、販売ブースの出店を行い、また、従業員約75名が、ランナー、応援団、沿道整理ボランティアとして参加しました。地域の方々との協力関係や信頼関係をより深く形成していくため、今後もこうした地域貢献活動を積極的に行っていきます。



さくらんぼマラソン



ランナーに声援を送る山形カシオ応援団

文化・芸術

カシオでは、交響楽団や文化施設への協賛等により、人々へ喜びと感動を提供するとともに、文化・芸術の継承を図っていきます。

- ・NHK交響楽団への協賛
- ・東京フィルハーモニー交響楽団への協賛
- ・パリ日本文化会館への協賛、など

その他

福祉作業所への商品解体・分別業務委託

カシオビジネスサービスは、「人と環境にやさしい企業」を目指し、製品廃棄におけるリサイクル活動を推進していく中で、2000年より継続的に社会福祉法人が運営する福祉作業所に、カシオ製品の解体や分別作業を委託していますが、ここ最近では、ネームランドカートリッジの解体分別業務が中心となっています。

知的障害や身体障害のある方が通う福祉作業所では、袋や化粧箱づくり、チラシ折等の軽作業が多い中、このような商品を扱う業務は、作業者的の方々の充実感が高いと評価をいただいています。カシオビジネスサービスでは、CSR活動の一環として今後も作業者的の方々の自立支援のお役に立てられるよう業務委託を継続していきます。



業務実施風景

ボランティア活動

「エコキャップ」運動への参加

カシオテクノ、カシオ情報機器、カシオビジネスサービスが中心となって、2008年度よりペットボトルのキャップの回収・寄付により途上国の子供のポリオワクチン接種に役立てる「エコキャップ」運動に参加しています。各主要拠点に回収ボックスを設置し、従業員全員に参加を促しています。

この運動は、NPO法人の「エコキャップ推進協会」が実施しているものです。回収したキャップ 800個が20円となり、これが1人分のポリオワクチンの費用となります。

今後も従業員が一丸となって取り組むことで、確実に成果を上げていきます。

清掃ボランティア活動の実施

カシオグループでは、全国の事業所や工場において、社員ボランティアにより、会社周辺の清掃活動を定期的の実施しています。今後も定期的に清掃ボランティアを実施し、地域社会に貢献できるよう活動を続けていきます。



羽村技術センター



カシオ電子工業



カシオ電子シンセン

災害被災者への支援

カシオでは自然災害などにより甚大な被災が発生した場合、被災者の方々の救済と被災地の1日も早い復興に支援を行っています。

●東日本大震災被害に対する支援活動

出前授業の実施

2012年7月19日、宮城県仙台市立岩切中学校にて、「命の授業」を実施しました。授業後、生徒たちからは、「「生命」を大切にするこの意味をあらためて知りました。」「これから『絆』を大切にして頑張って明るく生きていきたいです。」「「命の授業」をうけて、私はより強く生んでくれた母や育ててくれた家族、友人、先生などに感謝して生活したいです。」などの感想が寄せられました。

被災地支援ボランティア

2013年4月12日、新入社員研修の一環として、カシオ計算機と山形カシオの新入社員・合計60人が、東日本大震災の被災地・仙台市若林区で農地の復旧支援活動を行いました。若林区の太平洋沿いの一帯は田畑が多く、震災前は約800世帯が居住していました。しかし、津波でほとんどの住宅が流され、農地の多くが使用できなくなっています。新入社員たちは津波が運んできた石などのがれきを畑から除去する作業を行いました。2年間手が入っていない土は硬くなり、スコップを入れることさえ困難で、広い畑のわずかなエリアしか終わることができず、復興にはまだまだ多くの人の力が必要であることを痛感しました。



畑から石などを取り除く作業を実施

仮設住宅の防犯支援

カシオテクノは、被災地の抱える課題の解決に取り組む「つむぎプロジェクト」に協力し、仮設住宅防犯支援として、岩手県大船渡市にある山馬越応急仮設住宅の駐車場に赤外線暗視付監視カメラの設置工事をボランティアで行いました。



設置工事

G-SHOCK震災復興支援モデルの販売

カシオは、ファッションを通じ東日本大震災の被災地の雇用と産業を支援するプロジェクト「“LOVE”POWER OF FASHION」※のコンセプトの賛同し、G-SHOCKのコラボレーションモデルを開発・販売。
売上金の一部を同団体に寄付しました。

※“LOVE”POWER OF FASHION

ファッションを通じて日本の復興を願い、国内外の有名クリエイター約20名、セレクトショップ8社がプロジェクトに賛同。彼らがデザイン、プロデュースする製品を被災地の工場などで製造し、それを全国のセレクトショップなどで販売することで被災地に雇用を生み出し、産業支援に繋がる仕組みを確立している。



DW-5600LP-1JR

「旧ハリストス正教会堂 応急保存プロジェクト」への支援

東日本大震災で被災した、宮城県石巻市の文化財保護を目的とする「旧ハリストス正教会堂 応急保存プロジェクト」（主催：国道45号撮影班。PR45）に、プロジェクターを4台提供しました。旧石巻ハリストス正教会堂は、1880年建造の現存する日本最古級の木造教会で、同市の指定文化財になっています。市の中心部を流れる旧北上川の中洲に建ち、津波の直撃を受け大破した建物の保存に向け、2012年4月11日から5月11日まで、聖歌隊の音声をプロジェクターの光に変換し、建物に投影するライトアップイベント「Light Projection Ceremony」が行われました。



Light Projection Ceremony

「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」への寄付

2012年度も「あしなが育英会」の「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」に200万円寄付いたしました。今後も継続して寄付を行っていきます。

●中国四川省の地震被害に対する支援活動

カシオグループは、2012年4月20日に中国の四川省で発生した地震による被災者の方々の救済と被災地の復興に役立てていただくため、義援金として金50万元（約800万円）を壹基金（One Foundation）寄付しました。